

# の心意気で ふるさとをめざして 年頭の挨拶



日置町長  
江原 清

昭和六十三年の輝かしい新春を、ご家族お揃いでお迎えのことと存じ、心よりのお慶びを申し上げます。

昨年は、町政多年の悲願でありました「狩音ダム建設工事」が、いよいよ堤体部の掘削に入るという、本町の歴史に新たな一頁を加えた記念すべき年であります。

顧みますと、昭和五十六年度に本事業の採択をうけて以来、六年目にして今日を迎えることができましたことは、偏に私達の先輩諸賢のご労苦と地権者及び関係集落、関係機関をはじめ多くの皆様方の深いご理解とご協力の賜物であり、あらためて深甚なる敬意と謝意を表するものであります。今後は本工事の円滑な進捗を希いながら、早期完成に向けて全力を傾注いたすことが、私に課せられた重要な政治使命と考え、決意を新たに

しているところであります。

さて、早いもので昭和五十三年四月一日に町制が施行されて以来、今年は十周年の節目を迎えることとなります。十年一昔と申しますように、この間、町内の姿は大きく変貌いたしました。田んぼは矩形の美田となり舗装された道路が民家を縫い、また黄波戸漁港は船舶をゆつくりとくつろがせ、二位ノ浜、千畳敷はキャンプ場としての風格を備えてきました。社会教育・体育施設では、高齢者コミュニティセンター、漁村センター、B & Gセンターが完工し、総合運動公園も竣工を目前に控えています。

このように二十一世紀に向けて着実にしかも確かな歩みを進めている古里日置町に、私は限りない愛着と誇りをもっています。

申すまでもなく、古里づくりを進めるのは私達町民において他にありません。自分の家は自らの手で支えなくてはなりません。同じように、私達の町はここに住む私達自身が共に英智を出し合い、将来展望に立脚した古里づくりを、私達の手で進めていくより他はなく、決して他力をもって古里の将来を託されるものではありません。

幸いに、ここには郷土愛に根ざした美しい隣人愛が、町民一人一人に脈打っています。私はこの尊い心こそ、明日の日置町を約束してくれる何にも優るかけがえのない宝だと信じています。

本年は、中学校校舎の改築が新規事業として浮上することとなるでしょう。すでに昨年来より、地域の特色を生かした緑豊かな学び舎の建築に向けて、鋭意検討を重ねてきております。

第八次の漁港整備も新たなステップを踏むこととなります。リフト構想に則った観光開発もスタートします。林業構造改善事業は、林家の経営意欲を高める呼び水となるに違いありません。また、高齢化社会に即応した福祉行政も次第にウエイトが増しつつあります。

行財政環境はなかなか好転する気配をみせない一方で、時代の変遷により、町民皆様方の多様化したニーズは、次から次へと果てしないものがあり、本町の行政課題は尽きることはありません。これらの課題を一つずつ解決することによって、私達の町は成長し、そして本当に住みたくなる豊かな古里が築かれていくのであります。

「今日なしうることを明日に

のばすな」と、フランクリンは警鐘を發しました。私は先人のこの教えを肝に銘じ、本年も勇気と決断をもって、まさに雲を得た竜の心意気で、あらゆる難局を切り開いていく覚悟であり皆様方の一層のご指導、ご助言を希うものであります。

新しい年が、皆様方にとってお健やかで幸多からんことを心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

初日の出

我がふる里に幸あれと  
頂に来て手を合し居る

